



2024年9月4日

各位

会社名 セレンディップ・ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長兼CEO 竹内 在
(コード：7318、グロース市場)
問合せ先 取締役CFO 北村 隆史
(TEL. 052-222-5306)

株式会社イワキの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ

セレンディップ・ホールディングス株式会社（本社：名古屋市中区、代表取締役社長兼CEO：竹内在 以下、当社）は、2024年9月4日開催の取締役会において、以下のとおり、株式会社大垣共立銀行（本社：岐阜県大垣市、取締役頭取：林敬治）のグループ会社である株式会社OKB キャピタル（本社：岐阜県大垣市、代表取締役：岡田恒一 以下、OKBC）が運営する大垣共立事業承継2号投資事業有限責任組合と共同で新設するSPCを通じて株式会社イワキ（本社：三重県津市、代表取締役：児玉国興 以下、イワキ）の株式を取得し、子会社化することについて決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

なお、セレンディップグループと大垣共立銀行グループは、2021年7月に、ものづくり企業を中心とする事業承継などの経営課題解決における協業を目的とした業務提携契約を締結しております。セレンディップが有するプロ経営者の派遣を中心としたものづくり企業のハンズオン支援と、大垣共立銀行グループが有する地域の中堅中小企業とのネットワークの相互を有効活用し、地域産業の維持・発展のため取り組んでおります。

記

1. 株式の取得の理由

当社は、ものづくり企業を中心に中堅・中小企業の経営の近代化と再成長を支援する事業投資会社であり、プロ経営者を派遣しハンズオン型の経営支援を行うことで、投資先企業がものづくりに専念できる環境を整備しております。また、当社グループは、自動車部品製造をはじめとして、ものづくりに関する開発・製造の幅広い知見を有しております。

この度当社が子会社化するイワキは、自動車のボディ・シート部品の金属加工メーカーで、設立以来60年の歴史と幅広い顧客網を有しており、大型プレス機など他に類を見ない豊富な機械設備を有している点が特長です。特に大型のプレス機は、自動車の軽量化・高剛性化の潮流に対応する高張力鋼材（ハイテン材）の加工に大きなアドバンテージがあります。当社の子会社で自動車のオートマチックトランスミッション部品の金属加工メーカーである佐藤工業株式会社（本社：愛知県あま市、代表取締役：植村達司 以下、佐藤工業）とは、自動車用部品のプレス加工が事業の中心である点において類似性・親和性が非常に高い一方で、プレス機の対応領域、得意とする部品のカテゴリー、顧客の重複が少なく補完関係にあることから、当社グループにイワキを迎えることにより、両社の強みを活かしたシナジーを発揮することができると考えております。

また、特筆すべき事項として、イワキは2020年8月に新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自動車業界の急激な需要減を受け、民事再生の開始手続きを受けております。その後再生計画を提出し、株式会社地域経済活性化支援機構のファンド運営子会社であるREVIC キャピタル株式会社および株式会社AGS コンサルティングが共同で運営する近畿中部広域復興支援投資事業有限責任組合が完全子会社化し、資金的支援および業務改善

を行って参りました。今般その活動に一定の目途がついたとの判断から、同組合が保有するイワキ株式会社全部の譲渡を企図しました。

自動車のサプライチェーンは非常に緊密かつ強固で、様々な種類の部品がタイムリーに供給されることで成立しております。また、種類・数量が揃うだけでなく、高い品質基準を満たしていることが絶対条件です。サプライチェーンの一角を担う部品メーカーの交代は一朝一夕には行えず、特にユニークな大型プレス機を豊富に有するイワキを存続させることは、大きな社会的意義があります。

今回の当社による子会社化により、REVIC が繋いだ当地区における自動車のサプライチェーンを引き続き維持するとともに、セレンディップグループと大垣共立銀行グループの経営支援のノウハウとネットワークを活用することにより更なる発展を目指して参ります。

なお、具体的には、以下のようなシナジーを当社、OKBC および佐藤工業との間で見込んでおります。

① 経営の生産性の向上（経営の近代化）

独自の製造業向け DX ツールである HiConnex を用いた現場データの見える化、独自の経営ノウハウによる迅速な情報共有と意思決定により、経営の質とスピードを向上させることが可能となります。

② 売上増加

保有するプレス機の対応領域の違いおよび得意とする加工技術の違いを互いの主要顧客に提示することで、顧客への新たな価値の提供が可能となります。

また、従来よりも広範囲な顧客層に対しての新規開拓が可能となります。

③ 設備の効率的活用および設備投資の抑制

互いの保有設備の生産能力を最大限に活用することで、従来の主要顧客からの能力増強要請、新規受注見込み案件に対し、新たな設備投資の一部または全部を抑制することが可能となります。

④ 生産付随業務の共通化による費用の外部流出の削減

現在イワキで外部に委託している業務の一部は佐藤工業で請け負うことが可能であり、グループ内製化するにより、外部流出を削減すると同時に、イワキ内部の人材育成が可能となります。

具体的には、プレス用金型のメンテナンス業務、品質管理用器具の校正業務などです。

⑤ バックオフィスの共通化による経費の削減

経理、総務などのバックオフィス業務の重複を省き効率化することで、経費の削減が可能となります。

2. 設立する SPC の概要

(1)	名 称	快進オートモーティブ株式会社
(2)	所 在 地	名古屋市中区錦一丁目 5 番 11 号
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役 園田 季一 代表取締役 外角 淳
(4)	事 業 内 容	経営に関するコンサルティング 株式の保有及び売買並びにその他の投資事業 企業の成長に関わる経営支援
(5)	資 本 金	500 千円

3. 買収する対象会社（イワキ）の概要

(1)	名 称	株式会社イワキ
(2)	所 在 地	三重県津市芸濃町棕本 2360 番地
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役 児玉 国興

(4) 事業内容	自動車金属部品製造（プレス・溶接加工）			
(5) 資本金	15,000 千円			
(6) 設立年月日	1964年3月5日			
(7) 大株主及び持株比率	近畿中部広域復興支援投資事業有限責任組合 100%			
(8) 上場会社と当該会社との間の関係	資本関係	該当事項はありません。		
	人的関係	該当事項はありません。		
	取引関係	該当事項はありません。		
(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態				
	決算期	2023年1月期	2023年3月期	2024年3月期
	純資産	1,190百万円	1,252百万円	1,203百万円
	総資産	2,467百万円	3,129百万円	2,365百万円
	1株当たり純資産	8,226千円	4,175千円	4,010千円
	売上高	6,215百万円	1,457万円	7,166百万円
	営業利益	△6百万円	67百万円	△46百万円
	経常利益	12百万円	62百万円	△51百万円
	当期純利益	△115百万円	61百万円	△49百万円
	1株当たり当期純利益	△384千円	206千円	△164千円
	1株当たり配当金	－円	－円	－円

※ 2023年3月期は、2か月の変則決算となっております。

4. 株式取得の相手先の概要

(1) 名称	近畿中部広域復興支援投資事業有限責任組合
(2) 所在地	大阪府大阪市中央区備後町四丁目1番3号
(3) 設立根拠等	投資事業有限責任組合契約に関する法律
(4) 組成目的	新型コロナウイルス感染症等の影響により経営環境が悪化した事業者の復興及び事業再生支援
(5) 組成日	2020年7月31日
(6) 出資の総額	3,280百万円
(7) 出資者・出資比率・出資者の概要	株式会社北陸銀行 株式会社富山銀行 株式会社富山第一銀行 株式会社福井銀行 株式会社福邦銀行 株式会社十六銀行 株式会社愛知銀行 株式会社名古屋銀行 株式会社中京銀行 株式会社三十三銀行 株式会社滋賀銀行 株式会社京都銀行 株式会社関西みらい銀行 株式会社池田泉州銀行 株式会社但馬銀行 株式会社みなと銀行 株式会社南都銀行 株式会社紀陽銀行 株式会社りそな銀行

	株式会社ゆうちょ銀行 株式会社日本政策投資銀行 桑名三重信用金庫 京都信用金庫 京都中央信用金庫 大阪信用金庫 大阪シティ信用金庫 大阪商工信用金庫 尼崎信用金庫 株式会社AGSコンサルティング REVICキャピタル株式会社 なお、出資比率については非開示	
(8) 業務執行者の概要	名 称	REVIC キャピタル株式会社
	所 在 地	東京都千代田区大手町1丁目6番1号
	代 表 者 の 役 職 ・ 氏 名	代表取締役社長 坂本 啓晃
	事 業 内 容	投資事業有限責任組合の運営・管理
	資 本 金	100 百万円
(9) 上場会社と 当該ファンド との間の関係	該当事項はありません。	

5. 取得株式数, 取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数	0 株 (議決権の数: 0 個) (議決権所有割合: 0.0%)	
(2) 取得株式数	300 株 (議決権の数: 300 個)	
(3) 取得価額	株式会社イワキの普通株式	860 百万円
	アドバイザー費用等 (概算額)	51 百万円
	合計 (概算額)	911 百万円
(4) 異動後の所有株式数	300 株 (議決権の数: 300 個) (議決権所有割合: 100.0%)	

6. 日 程

(1) 取締役会決議日	2024年9月4日
(2) 契約締結日	2024年9月4日
(3) 株式譲渡実行日	2024年10月11日 (予定)

7. 今後の見通し

イワキのみなし取得日は2024年12月末とする予定であります。なお、本件に伴う2025年3月期の通期連結業績に与える影響については、負ののれんが発生し特別利益として計上する見込みであります。その他の影響も含め現在精査中であり確定次第速やかに開示致します。

以 上

(参考) 当期連結業績予想 (2024年5月8日公表分) 及び前期連結実績

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
当期連結業績予想 (2025年3月期)	21,800百万円	800百万円	735百万円	546百万円
前期連結実績 (2024年3月期)	19,787百万円	477百万円	595百万円	518百万円